

「季刊わたぼうし」 第21号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1990年(平成2年)12月1日 '90 冬号

第21号のテーマ 「障害者と交通機関 I」

落ちていませんでしたか
雲よ 雲たちよ
私の幸せ
どこかに落ちていませんでしたか
風よ 風たちよ
私の幸せ
どこかに落ちていませんでしたか
鳥よ 鳥たちよ
私の恋
どこかに落ちていませんでしたか
雨よ 雨たちよ
もう私の前に不孝を降らさないでおくれ
雲よ 風よ 鳥たちよ
私の幸せはこんできておくれ

作:M.T

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を越えてお互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ《障害者と交通機関Ⅰ》

今回は障害者が町へ出るための交通機関にどんな問題点があるのかを考えてみます。

列車を利用してみて

障害者支援施設・利用者(編集委員)

車いすの人でも列車を一人で利用することは可能であることは読者のみなさんに知ってもらいたいと思い、私は車いすを利用して七尾～金沢駅まで乗ってみました。駅員に頼むと、列車の乗り降りを手伝って開いただくことができます。

しかし、問題点はいろいろとあります。第一に七尾駅でタクシーを降りると階段があります。どうしても駅に入るには、階段を上げてもらう必要があります。そこで、通りすがりの人をお願いして上げてもらうしかありません。

駅に入ることができたら、切符の購入をし列車に乗ることで。言語障害の人はできるだけ、あらかじめ行き先や、どの列車に乗せて欲しいかをメモをして持って行ったらよいと思います。

ほとんどの駅の改札口は狭くて通れませんが、私の車いすの幅は59.5cmと小型でしたので、改札口を通って行くことができました。新しい金沢駅を見て周りしましたが、障害者には利用しやすい駅とは思いませんでした。

まず、障害者用トイレはありますが、一カ所しかありません。一般用トイレは段があって車いすでは利用できません。来年「ほほえみの石川大会」に全国の障害者がやって来ますが、一カ所の障害者用トイレで対応ができるのでしょうか。

利点は車いすがホームを渡るときはエレベータを使うことができます。最後に一言、いくら設備を整えても障害者自身が利用しませんが、改善されていかないと思います。

障害者と交通機関

地域住民・(ひまわり号実行委員)

車いすであれ、松葉杖であれ、またその他の障害を持った人たちが交通機関を利用するにあたり、何が障害なのかと思うとき、世の中のすべてのものが障害の対象となる気がします。

例えば、右利き、左利き等を考えてもほとんどのものが右利き用にできているように、すべてのものは同等の考え方だと思います。

私たちは障害を持った人たちの行動、活動がスムーズにできるためには大変長い時間が必要だと思います。

しかし、何もしないでいるわけにもいかず、皆さんの英知と行動を共にして改善して行けるように頑張っていきたいと思っています。

でも、最近のモータリゼーションの発達により、重度の障害をもった人たちも気軽に車に乗れるようになったことは、とてもうれしいことだと思っています。

点から点の移動は気軽になってきましたが、その点での行動は簡単に行かず、難儀しているように思われます。

最近はタクシーのトランクに車いすをたたんで走っているのがよくみうけられます。一時は面倒でタクシーの運転手さんに拒否されたというようなこともありました。福祉の意識も少しずつ向上され、理解されてきているようなので全交通機関の方々の思いも考え方も少しずつ変わって行くのではないのでしょうか。

障害者と交通機関

地域住民・車いす使用者、会社員

日本の福祉も発展し、障害者にとっても、住みよい国となりました。けれど交通機関においては、まだまだ問題も多いと思います。

他国の汽船やバスの様子がテレビで放送されていたのですが、駅にはエレベーターがあり、また、汽車とホームの間も平らになっていて、車いすでもスムーズに乗り降りしていました。

バスにはリフトが付き、何の不自由もなく利用しているのを見て、大変うらやましく思いました。私も車いすなので、一人では汽車やバスにも乗れず、小さい頃から早く車の免許を取りたいと考えていました。現在、車が私の交通手段です。車に乗るようになってから、少し自分にも自信がつき、今では、かけがえのないものとなっています。

けれど、車で行けないところや車を運転できない人もいます。そんなとき、汽車やバスが利用できれば、もっと障害者も自分たちの世界を広げて行けるのではないのでしょうか。

また、常に利用はしませんが、会社の旅行の際に感じたことです。フェリーに車で乗った後、車外へ出なければならないのですが、客室へ行くには、狭くて急な階段しかなく、介助してもらう人にもすごく負担をかけてしまいました。また、観光バスにもリフト付きのものがあれば、すごく助かるのにと実感しました。その点、飛行機は、タラップを上がらなくても、搭乗口からそのまま機内へ入れて、不便のなかったことを覚えています。

このように、日本の交通機関がもっと利用しやすくなるには、まだまだ問題も多いと思います。けれど、一日も早く障害者が、車以外でも、一人で何の不便もなく自由に、通勤や通学、また旅行もできる日が実現することを心から願っています。

障害者と交通機関 地域住民・(七尾市身体障害者福祉協会会長)

過日ある人から、「わたぼうし新聞」(今回より「季刊わたぼうし」と改名するそうです)の原稿を依頼され、軽い気持ちで引き受けてしまいました。しかし、人はそれぞれのありもしない能力を、まことあるが如く見せたがるものです。(これ即ち己のこと)。

かといって頼まれれば、いやと言えない性分の持ち主。ありもしない頭を絞っては見たものの、所詮ないものは出てくるはずがない。そんなこんなで悩んでいるうちに、人の気も知らず無情の月日はどんどん過ぎ去って行きます。

今回のテーマは「障害者と交通機関」だそうです。切実であり、的を得た企画であると思います。特に下肢障害者にとっては一大関心事です。

近年、障害者の運転免許取得者は急激に増加していますが、幸い障害者の交通事故は比較的少ないようです。

これは自分を知り、交通法規を守り、譲り合いの精神、社会的弱者(社会的弱者という表現は当を得ないかも知れない)という自覚がそうさせるのではないのでしょうか。

また、車いすでの外出可能区域も拡大されてきましたが、無理な行動をとらず常に自衛の心を忘れないことが、賢明な処世術ではないのでしょうか。

障害者と交通機関

地域住民

皆さん、始めまして、私は聴覚障害者ですが、ただ今パソコン通信に夢中です。通信でE様より「季刊わたぼうし」の原稿を依頼されて、ペンを取らせていただいたわけです。おそらく「わたぼうし」では初めての聴覚障害者だと思いますが、今後ともお付き合いをよろしくお願いいたします。

さて、テーマの「障害者と交通機関」ですが、聴覚障害者の場合は、他の障害者と違って身体が自由に動けますので、バスや電車に乗ることはもちろん、自家用車でも健常者と同じように自分で運転をすることができます。しかし、耳が不自由なため不便な思いをすることがあります。

例えば、列車に乗ったり、待っている間に予定の変更やお知らせのアナウンスがあっても聞こえませんが、自分一人が残されてどうして良いのか分からないことがあります。

列車の到着ホームの変更を知らずに、気がついたときは、あわてて走って行って最後の列に並んだり、車両が分かれるのを知らずにとんでもない方向に行ったりします。

男性の場合は列車の情報に詳しいので、まごつくことが少ないのですが、女性の人はいずれかわかる人、聞こえる人と一緒に行く必要があるようです。

バスに乗る場合は昼間は外が見えますので問題はありませんが、夜間だと外の様子がわからず、「運転手さんが〇〇です。降りる方はいませんか」とアナウンスしても、聞こえないため降りるタイミングを逃してしまうことがあります。

最近のバスは電子掲示板がついてわかるようになってきましたが、40歳代の若い聴覚障害者はほとんど自家用車ですので、バスや列車に乗る機会が少なくなっています。

ちなみに金沢市内を走るバスの料金はいくらなのかわかっておりません。

西ドイツのボンでの交通機関

地域住民（富山大学教養部勤務）

3年前になるが、私は西ドイツのボンに一週間ほど滞在したことがあります。ボンは西ドイツの首都でもあるが、都市部では中世以来の町並みが維持され、路面も石畳になっていますが、その上を走っているトロリーはユニークでした。

停留所には料金表が立ててあるが、そこには、大人料金と並んで「子供・犬」料金というのがありました。

何故かという、お年寄りとか視覚障害者は大きな犬を伴侶に連れて街に出ているからです。犬は実に仕込まれているというかおとなしく、人間とともに、そうした乗り物に乗って来るのです。目や動作の不自由な主人には、乗り物に近づいたことを仕草で教えて、主人が乗り降りするのを確かめています。

また、周りの人もそれを見守ったり、助けたりしていますが、当たり前のようになっています。乗り物の乗降口が広く、低く取ってあります。

列車ですが、ヨーロッパの場合はプラットホームが低くて、健常な人間でもちょっと乗り降りが大変です。街中は心くばりをしているのにとおもっていますと、車掌でしょうか、

そうした人がちゃんとサポートしております。手が足らないと、周りの人がこれまた、当たり前前に駆け寄ってサポートしております。

こうした情景が当たり前になっていることを経験したのですが、街のハード(施設)を変えることも大切ですが、社会のソフト(意識・思いやり・コンセプト)が変わることがもっと大切だと実感しました。

障害者と交通機関(私の提示) (元養護学校校長)

私は2つの意見を提示します。

1.精神薄弱者にJR乗車の割引を

ことしの2月に心臓病などの内臓疾患の人も、JRの割引が認められるようになりました。JR乗車の割引で取り残されているのは、精神薄弱者だけです。障害者の中でも最も数が多いからだろうか、それとも形態的に障害が目立たないからだろうか、精神薄弱者を名乗りのたかないからだろうか、いろんな理由が重なっているのかも知れません。

石川県議会は国会に対して、精神薄弱者の乗車割引の意見書を提出してくれました。県下各市町村でも意見書提出の手配をとってもらっています。石川県だけでも国会嘆願(たんがん)の署名が4万人も集まりました。どうぞ精神薄弱者にJRの割引が実施されることを切に希望いたします。

2.障害者のマークを

JRの電車でシルバーシートのマークがついた座席があります。めったに障害者がそこに座っているのを見たことはありません。いや、座っている人が障害者なのかも知れません。身体障害者や視覚障害者の場合ははっきりわかりますが、他の障害の場合はわかりません。そこで、自動車の初心者マークのような障害者のマークを体のどこかに付けてもらうと、はきりわかるのです。障害者でない人が障害者のようなふりをしてシルバーマークの席に座ることが少なくなると思います。障害者が来たとき躊躇(ちゅうちょ)せずに席を譲ることもできると思います。

JRの回答から

このJRの回答は、ある読者が七尾駅の「JRキク象投書箱」に投書しましたら、JRより返答が届きました。これを編集局に提供して下さいましたのでここに掲載します。

なお、質問内容は質問者自身が項目が多くて覚えていないということですので、回答のみ掲載します。

- ①駅のスロープについては、金沢支社内では10駅設置されています。駅前整備等の機会があれば、その中で努力したいと思います。
- ②改札口については、車いすの利用に支障のない広さに改善しており、今後も、改善に努力して行く考えです。
- ③車いすによる線路横断は、設備上難しいので、利用の際に社員に申し出てくだされば協力させていただきますので、ご理解をお願いします。
- ④現在、階段の両端に手すりを設置してありますが、中央付近の設置については、全体の中で検討したいと思います。
- ⑤身障者専用トイレは、金沢、富山、小松駅に改装時に設置されています。今後、改装計画があれば努力したいと思います。
- ⑥列車のスロープについては、乗車口に適当な傾斜、必要な長さが取れず難しい状況です。

回答・JR西日本金沢支社キク象コーナー

福祉もの知り博士

その1 作業施設について

読者の皆さん、こんにちは、今回は施設シリーズの3回目として作業施設について講義を行う。この施設は法律上は身体障害者授産施設である。雇用されることの困難な身体障害者、または生活に困窮する身体障害者を入所させ、必要な訓練を行い、かつ職業を与え自活させる施設とされており、入所定員は30名以上である。この施設においては、授産事業に伴う収入から必要経費を控除した収益を工賃として作業員たる入所者に支払うこととされている。

この施設形態の中には、特に重度障害者の利用に配慮した重度身体障害者授産施設(定員50名以上)、通所利用に配慮した身体障害者通所授産施設(定員20名以上)が設けられている。

このほか、身体障害者福祉工場(定員50名以上)が設けられているが、これは法律上の授産施設とは異なり、経営者との雇用契約に基づき就労することになる。施設設備や運営等で社会福祉施設としての取り扱いを受ける部分もあるが、労働関係法の適用を受ける事業所としての性格をもつ施設である。

次回は地域利用施設について講義を行う。これから寒くなるが皆さん体に気をつけて忘年会、クリスマスを楽しもう。

(参考文献:「介護福祉士養成講座・障害者福祉論」中央法規出版)

その2「脳性小児麻痺」 (Cerebral Palsy)

受胎から新生児(生後4週間以内)までの間に生じた脳の非進行性病変に基づく永続的な、しかし、変化しうる運動及び姿勢の異常と定義される。

周産期(妊娠28週以後から出産当日を第一日目とする生後7日までの期間)に原因のあるものが多い。無産素症、異常分娩、新生児仮死、頭蓋内出血などによって脳に病変が生じてしまい、病変それ自体はそれ以上よくも悪くもならないが、結果として、座位や直立姿勢を保ったり、思い通り四肢を運動させることが困難になる。

運動障害の種類によって分類され、座位(げいせい)型、アテトーゼ型、痙直(けいちよく)型、失調型、混合型など大きく8つの型に分類される。

(解説:石川県七尾市・障害者支援施設「青山彩光苑」理学療法士)

M.Tさんの詩にメロディーがつく

昨年、当機関紙で石川県七尾市の「青山彩光苑」に入所しているM.Tさんが、詩集「あゆみ」を自費出版したことを紹介しました。

非常に好評で増刷を重ね、今年5月に常陸宮様御夫妻が施設を訪問されたとき、詩集を手渡されましたら、6月に常陸宮華子様よりM.Tさんの誕生日に御祝いの電報が届きました。また、この詩集を手にした七尾市内の女性が詩集の中から、今回の表紙に掲載してあります「落ちていませんか」に曲を付け、同市内のボランティア団体によって施設内で発表し、本人に曲を録音したカセットテープを贈りました。

わが家のペット大集合

～トム君登場～

地域住民

私の家の犬は“トム”と言います。今は一人ですが、この間までは“ジョン”というお姉さんがいました。ちなみに“トム”はオスです。これから“トム”にお話をしてもらいます。

“トム”始めまして僕がトムです。今は一人ぼっちになってしまい寂しいです。けれど、朝はお父さんが散歩に連れて行ってくれるし、ご飯は優子ちゃんももってきてくれるので幸せです。

僕の好きなものは、散歩とアイスクリームです。散歩はお父さんがほとんど連れて行ってくれますが、気が向けば優子ちゃんも連れて行ってくれます。アイスクリームは優子ちゃんと半分こして食べます。

甘くてとてもおいしいです。でも、あまり食べ過ぎると太ってしまうので、少しにしておきます……。というわけで、僕は今、田中家で快適な生活を送っておりますれば、皆さんとお会いしたいです。それではさようなら。

このコーナーに登場してくれるあなたの家のペットを紹介してください。今回より写真印刷が可能になりましたので、写真を添えて下されば大歓迎。

皆さん知っていますか？

電話番号案内104の有料化 地域住民・視覚障害

104が12月1日より有料化されることは大変残念です。とりあえず、次の2つのことについて一刻も早くもとにもどしていただくよう希望します。

- ①オペレーターが名前を名乗ること。
- ②機械による自動音声案内。

これらは、いずれも時間の無駄で案内にかかる時間を延ばすもので何ら利用者のサービスにはなりません。名を名乗るなら営業だけで充分です。

さらに自動案内では、聞き直したいときなど、余分なメッセージを聞くことになるし、「ありがとう」の一言も言えずに電話を切るのはいやなことです。

名前を名乗らなくてもよいから、電電公社時代の早くて心のこもった無料案内に戻ってくださることを希望します。

12月1日よりの104無料案内について

該当者

- ・視覚障害者 1~6級
- ・肢体不自由者 1~2級

申し込み方法

- ①NTT窓口に身体障害者手帳を持って行き、必要事項を記入する方法。
- ②身体障害者手帳のコピーを最寄りのNTTに郵送する方法があります。
公衆電話からでも、あらかじめ届けた電話番号と暗証番号を申し込めば無料案内になります。
- ③無料案内についての問い合わせは、局番なしの116で受け付けています。

各地の行事に参加して

わけら人間コンサート

障害者施設職員

9月8日(土)に金沢市観光会館において、「わけら人間コンサート」が行われました。

ラジオでおなじみの永六輔さんの司会で、実行委員長の秋山ちえこさんのあいさつの後、松島とも子さん、ポニージャックスをゲストにコンサートが繰り広げられました。オープニングの石川県の施設の方たちによる「ドレミの歌」の合唱など、皆さんの一生懸命歌う姿がとても印象的でした。

身体障害児より送られた手紙をもとに作られた歌は、ポニージャックスの素敵なハーモニーとなって会場に響き渡り、それがとても悲しく感じられました。

来年もまた、行きたいと思い、まだ行ったことのない人には「ぜひ」と言いたいです。

金沢市ふれあいコンサート

石川県金沢市・福祉課

今年、初めて実施する「ふれあいコンサート」は、9月16日(日)午後1時30分から石川県婦人生活会館ホールで超満員の観客の中で始まりました。

このコンサートは、毎日元気で生活している障害者の人たちと市民が、音楽を通してともにふれあい、友情と共感を育むことを目的として開催しました。

コンサートの内容は地元の障害者グループ7団体による合唱、演奏、合奏、そして和太鼓演奏などがあり、また、メインゲストの宮城まり子さんと「ねむの木学園」の子どもたちによる歌、ダンス、和太鼓の演奏に満員の観客の皆様から盛大な拍手や応援があり、皆、力一杯頑張り、終演予定時間を一時間も超過しました。

北陸東海車いす市民交流集会

20号にて紹介をしました北陸東海車いす市民交流集会が9月22日(土)~23日(日)にかけて、障害者、ボランティアを含め総勢200名の参加者で石川県社会福祉会館、金沢シテイモンドホテルにおいて開かれました。

夕食を兼ねた交流会は実行委員の手作りのアートフラワーが飾られたテーブルで、プロの司会者であるKさんによって進行されました。

自らも筋ジストロフィーのTさんという女性による三味線、金沢女子短期大学によるお琴の美しい音色が流れる中で、食事をしながら他県の方々との情報交換、交流が行われていました。

翌日は石川県社会福祉会館において、分科会がありました。そのうちの「生き方とくらし」で参加者がパネラーへの質問の中で「障害者の自立」についてどう考えていますか?に対して、一人でアパート生活をしている重度のパネラーから「自分の生活を自分の責任で

行う。ということは、現在の障害者の生活は自分を除いた専門家によって作られている」ということに、何故か取材者を反省させるものがありました。

実行委員長のT.Hさんにこれまでの経過などをお聞きしましたら、「昨年7月に金沢でやろうという話が持ち上がり、11人全員が障害者の実行委員で準備を行ってきて大きな交流会を開けたことに、苦しかったが成功してうれしい」と語ってくれました。

北陸東海車いす市民交流集会にてインタビュー

北陸東海車いす市民交流集会に参加した、Oさんの介護を担当されたHさんにインタビューをしました。職業は友禅作家だそうです。

Q.結婚は？

A.まだです。

Q.何がきっかけで、北陸東海車いす市民交流集会に参加されたのですか？

A.介護をしている知り合いの人に北陸東海車いす市民交流集会があると聞いて、少しの間ですが参加しました。

Q.介護に大分慣れていますね。

A.いや、ぜんぜん慣れてなくて。お風呂だけは今回が初めてでした。

Q.北陸東海車いす市民交流集会に参加した感想は？

A.最初は何をしたらよいのかわからず、あっちこっちうろうろして、緊張しました。

Q.質問はガラリと変わりますが、町へ出てても障害者があまりいないでしょう。私は先週の日曜日に列車で七尾から金沢へ出てきました。でも、列車に乗っていた障害者は私一人でした。

なぜ、障害者は列車に乗っていないのかと疑問に思いました。現在では車いすの人でも、JRの職員にお願いをすれば乗せてもらえるのに、何故乗っていないのでしょうか。

A.私の考えだけですが、乗せてくれるということもわかりませんし、今では列車よりも車の方が便利になったためではないでしょうか。

Q.私の思うには、駅のホームが高くて、一人で乗れないのと、入り口が狭くて車いすではぎりぎりを通りにくいからだと思います。

今日はどうもありがとうございました。最後に「わたぼうし新聞」について感想を言って下さい。

A.私も機関紙を発行していますが、この「わたぼうし新聞」の読者がたとえ一人にな

っても頑張って続けて欲しいものです。

その一人の人のために頑張って続けてください。この「わたぼうし新聞」が細くても長く続くことを祈りつつ。

ときめきのとびうめ大会に参加して

～第26回全国身体障害者スポーツ大会～

編集委員

「ほほえみの石川大会」を来年に控え、11月3日～4日に福岡県で行われた「ときめきのとびうめ大会」に石川県選手団として参加しました。車いす使用者として、大会参加中に気になった点をいくつかを挙げてみます。

まず宿舎となったホテルですが、部屋の入り口が狭く、中に入っては車いすの方向転換ができませんでした。ホテルのフロントと交渉し、若干ではあるがスペースの広いシングル部屋に変えてもらいました。

次にトイレですが、このホテルには障害者用トイレがなく、通路が狭く、手すりの設備もなく大変な苦勞をしました。風呂もスペースが狭いうえ、段差が高くて使うことができませんでした。

来年は全国からたくさんの障害者がやって来ることになります。大会期間中だけでなく、いつも気軽に安心して利用できる施設が増えればよいと思います。

みんなの広場

確 信

地域住民・病院看護婦

「何の仕事に就こうか」と、考え始めたのは中学3年の頃からです。それまでは将来のことなど、しっかりと考えても見ませんでした。

私はまだ習い始めて間もないのに「ピアノの先生になりたい」と、母に言ってみました。すると「お嬢さんのやる仕事やわいね」と言われてしまいました。

ピアノの先生になるにはたくさんのお金がかかるそうなので、私は母の言ったことに納得しました。そして「特別ピアノが上手だ」というをわけでもありませんでしたので、自分からあきらめました。

そして、高校を選ぶとき、ピアノの先生のようなお嬢さんが進む道とは、反対の商業高校へ行って、卒業したらすぐ働こうと思いました。

それから七尾商業高校へ入学した一年生の頃、NHKテレビを見ていたら、痴呆老人の病院が出ていました。

その病院の看護婦さんたちは、人手不足でとても困っていました。きつい、仕事に耐えられなくて辞めていく人や、病院側の人たちと議論して怒り出す看護婦さんもいて、人手不足という深刻な問題があることを知りました。しかし、私はこの仕事について、少して

も役に立ちたいと思い始めました。

だけど、少し前の話になりますが、ある病院においてこのようなことがありました。見習い看護婦さんが点滴の薬を間違えて患者さんが死んでしまいました。

私はこれを新聞で読み、この仕事はとても責任の重い仕事だ、と実感して看護婦になることをあきらめようとしたこともありました。いくら私がドジでも頑張っ、一日も早く一人前の看護婦になりたいです。

時代の願いを叶えたい

地域住民・高校生

時代は今、何を求めているのだろうか、そう考えたとき、私は「福祉だ」ってピンツ、とインスピレーションを感じたのです。

何故なら、高齢化社会という大きな問題があるからです。そして、心理という神秘の世界を追求してみたいという願望もまた、理由の一つなのです。だいたい「福祉」って何をするとするのだろうか。

今までに調べた資料によりますと、社会福祉課と介護福祉課の二つがあります。前者は幼児の教育・カウンセラーが主で、後者は身体障害者や老人などの介護だと記されていました。

現在では、音楽療法があるとまで記されているではありませんか、もはや、ミクロを超えた時空の世界が実現しているのです。

私が思うには「福祉」っていうのは、どれだけ人間性を発揮できるか、だと思ふのです。時代が忘れていた愛情を提供する場なのだと思います。

だから、福祉は必要なことだとしみじみ思わされます。そんな分野だからこそ、私はトライしてみたいのです。このバイタリティーあふれた若さでトライしたいのです。

今、時代の願いを叶えるために若い力が求められつつあるのですから、それに答えるのです。ただ、その願は一つに「福祉」があったから、という簡単な理由であったとしても、私は「福祉」の道を歩んで行きたかったから。

"Mey I help you"の心

障害者支援施設・副施設長

「わたぼうし新聞」第20号を読ませていただき、テーマである(障害者と自動販売機)を読んだについて感想をという御依頼で、改めて障害者の方々が、町中に氾濫している多種多様な自動販売機に、いかに困難な思いで挑戦されているかを思い知らされました。

特に視覚障害者の方々には、点字や音声、テープの工夫など……。車いすでの高さの問題、又、手の不自由な方にはコインの投入口の大きさ、あるいはクレジットカードのサインの際等々。さまざまな体験をしていただけるわけです。

たしかに現在の我が国には、あまりにもいろいろな自動販売機が多すぎると思ふます。そして福祉国家として障害者の社会参加を、どんどん推進しているわりには、ご指摘の

都合かつご不便をおかけするところが何と多いことかと、今さらながら痛感いたします。

福祉国家の先進国北欧では、今日の日本ほど町の中に自動販売機は見あたりません。

外国に旅行して、少しでも困った素振りを見ると(例えばお買い物やまた、道が分からないときなど)気軽にMey I help you?「メイアイヘルプユウー」と声をかけられます。直訳すれば“お助けしましょうか”私はこの言葉が大好きです。

少しでもお困りの方に見て見ぬ振りで通り過ぎずに「何かお役に立てませんか」と、いう手を差し伸べる温かい援助の心こそ、すべてだと思います。

またお困りの方も、気軽に回りの者に「すみませんが……して下さい」と堂々と助けを求められたらよろしいのではないのでしょうか。

今電話ボックスは処々で、身障者用のがあります。又、駅の自動切符販売機にも点字の案内がついたものができつつあると聞きます。これからどんどん工夫・改善されてくるでしょうけれども、何よりも健常者、障害者がお互いが助け合うとき、本当に美しいコミュニケーションが生まれるはずだと確信しています。

川柳

地域住民・在宅障害者

- ・パトカーにひき逃げされた僕の影
- ・ステーキに逆らっている総入れ歯
- ・スイッチポンおふくろの味遠ざかる
- ・スタイルがよくて社長の目に止まり
- ・バス連ね旅の恥など捨てて行く
- ・マイカーで三途の川を見て帰り
- ・ハイヒールに申し訳ない娘に育ち
- ・ポケットのマッチのラベルで嘘がばれ
- ・カップルへ毒舌入れた名祝辞
- ・サングラスかけてすむも車椅子

本の紹介

りんごの涙

俵 万智著 文芸春秋刊 定価1,200円(税込み)

私は一粒の種をまくために、列車を降りようと思う。列車にまた、新しい人が乗って来るだろう。そして何もなかったように、走り続ける。学校とは、そういうものだ。(中略) 教師という仕事は、荒れ地ではなく、生きた人間を相手にする。生きた人間に種をまく。自分は生徒たちにどれほどの種をまくこともできぬまま。橋本高校を去ろうとしているだからなおさら、いつかいつか小さな花を咲かせて、彼らに見せることができたなら、と思うのだ(本文より)

お知らせ

12月9日(日)は「障害者の日」です。

その前日の12月8日(土)午後7時20分~11時30分まで、NHK総合テレビで「障害者の日、開かれた社会へ」の特別番組が放送されます。

第一部は「人間らしく生きたい」をテーマにしたドラマ「母からの贈り物」、第二部は「社会参加への道」をテーマにした「アメリカ障害者法などのスタジオ討論とドキュメント」が放送されます。

アンケートご協力のお礼

20号のテーマ「障害者と自動販売機」についてのアンケートを同封しましたら、たくさんの貴重なご意見が寄せられました。ここに皆様に厚くお礼申し上げます。

また、私たちは主に肢体、視覚障害者を対象に掲載しましたが、ある読者の方より精薄者に対する問題点も指摘されていました。

この貴重なご意見は紙面スペースの関係上で今回は掲載できませんでしたが、もう一度皆さんに自動販売機に対するご意見を募集いたします。

原稿募集について

今回のテーマ障害者と交通機関を読んだ感想はいかがでしたか。たくさんのご意見を寄せていただきありがとうございました。

今回より機関紙名を「季刊わたぼうし」と変更し、日常生活に密着した紙面内容を目指しています。本号を読んだ感想、障害者の日常生活における問題点などお寄せ下さい。

次号も「障害者と交通機関」について考えてみます。

編集後記

今回のテーマ「障害者と交通機関」に寄せられた原稿を読むと各人それぞれの体験や考え等、なるほどと思うことがたくさんありました。やはり体験からの意見は他人が気付かない点がハッキリわかります。(H.A)

11月3~4日に福岡で行われた第26回全国国身体障害者スポーツ大会。当紙の編集委員であるKさんも石川県選手団として出場しましたが、惜しくも入賞は逃がしました。しかし、全国の仲間と交流できたことに喜びを感じたそうです。また、ホテルなどの障害者用のトイレの設備が少なかったと語ってくれました。

さて、来年は「ほほえみの石川大会」ですが、やはり少ない身障者用トイレ。今、工事中だそうですが、果たしてそれに対応できるのでしょうか?(Z.O)

ほほえみの石川大会

第27回全国身体障害者スポーツ大会

ほほえみ 広がる友情 わく力

大会日程:平成3年10月26日(土)~27日(日)

開催地:金沢市・松任市